

巻 頭 言

高松赤十字病院紀要第3巻の発刊にあたって

高松赤十字病院 院長 網谷 良一

一昨年の創刊から早いもので、この度『高松赤十字病院紀要第3巻』を発刊することになりました。「高松赤十字病院事業運営5カ年計画（平成26～30年度）」の中で重点項目の一つとして「院外への情報発信の推進」を掲げています。当院のホームページ、地域の医療機関向け広報誌、患者さん・ご家族向け広報誌など様々な媒体を通じて院外への情報発信に努めていますが、この高松赤十字病院紀要もその一環として当院の医療の現状の一端を紹介するべく院外の医療機関や大学などへも送付するものです。加えて当院の職員間での情報共有を図ろうとする狙いもあります。

当院は1,100名近い職員を有し、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院、二次救急指定病院、臨床研修病院、へき地医療拠点病院等に指定され、非血縁者間骨髄移植や腎臓移植も行っており、地域の中核となる急性期・高度急性期病院であります。職員の皆さんには多彩な病態を呈する多くの患者さんの医療に職種を問わず励んでいただいておりますが、日々の業務の中で新たな病態を呈する患者さんに遭遇することもあるでしょうし、先輩方から蓄積されてきた経験を踏まえて新たな取り組みに乗り出している診療科、病棟、部門・部署も数多くあると思います。これらの業務上の貴重な経験や知見を振り返り、整理・検討し、考察を加えて学会や研究会などで発表することは、発表する本人にとって有益であるだけでなく、周りの同僚にとっても貴重な追体験となります。発表内容をさらに論文化することによって、内容をいっそう吟味し、成熟させることに繋がり、本人のみならず当該の診療科や部門・部署全体にとっても大きな財産となります。ひいては当院の存在を示すことにもなります。

今回の第3巻には、呼吸器内科、看護部、検査部、栄養課から、症例報告、研究報告、業務上の指針などが寄せられました。いずれもたいへん興味深く、また今後の大きな発展性を含んでいるものばかりです。職員の皆さんには是非とも一読していただきたいと思います。今回は例年に比べて比較的少数の論文掲載となりましたが、次号にはさらに奮って投稿していただくことを大いに期待しています。今後とも『高松赤十字病院紀要』は勿論のこと、和文・英文を問わず各々の職種、領域の専門雑誌にも積極的に投稿されることを心より願っています。